

地域包括ケアに関する意見交換について

- 地域ケア会議は、地域包括支援センター等が把握した地域課題への対応等について、地域の人々と共有・検討しながら、地域づくり、地域の資源開発、政策形成等につなげていく協議の場であり、日常生活圏域レベルで最も多く開催されている。
- 日常生活圏域レベルの会議から抽出された地域課題について、区レベルにおいては、年に1、2回程度、区地域包括支援センター運営協議会の開催に合わせるなどして地域ケア会議を開催している（別紙14参照）。その中で市レベルにおいても共通すると考えられることについて、本協議会において各委員の意見をお聴きし、課題等への対応に向けての参考とさせていただきたい。

【意見交換のテーマ】 認知症の人と家族を支えるために地域で何ができるか

- ・ 令和4年度の区レベルの地域ケア会議においては、日頃の相談対応など日常生活圏域で把握した課題を踏まえ、認知症の人やその家族への支援をテーマとした区が多かった。
- ・ その中でも、安佐南区地域ケア会議では「認知症の人と家族を地域で支えるために」をテーマとし、「認知症の早期発見・相談が遅れる要因や課題」について検討を行っている（別紙15参照）。
- ・ 安佐南区の会議では、区内6地域包括支援センターが相談支援業務を通して得た、“周囲とのトラブルや警察による相談で初めて相談に至る事例や、直ちに入院が必要な重度の認知症や8050問題など複合的な課題を有するなど困難な事例が増えている”という気づきを報告し、出席者それぞれの見地から意見交換を行っている。
- ・ 地域として課題の共有を行い、「どこに相談すればいいかわからない」高齢者や家族がまだ多いことから、今後取り組めると良いこととして主に以下の意見が出された。
 - ① 高齢者の集まりやすい場所で気軽に相談できる場を数多く設ける。
 - ② 認知症に関する勉強会などを開催し、地域全体で理解を深める。
 - ③ マスメディアの活用など、相談機関としての地域包括支援センターの広報を行う。
- ・ これらを踏まえ、この度は以下の視点から御意見をいただきたい。
 - (1) 上記①～③について、各団体で取り組んでいること。
 - (2) 上記①～③以外に、認知症の人と家族を地域で支えるためにできること。

なお、認知症に関する地域課題については地域ケア会議開催のみにとどまらず、多職種情報交換会や研修会等においても取り上げたり、市民公開講座としてユーチューブ配信を行うなど広く市民に向けた啓発を行ったりしている。